

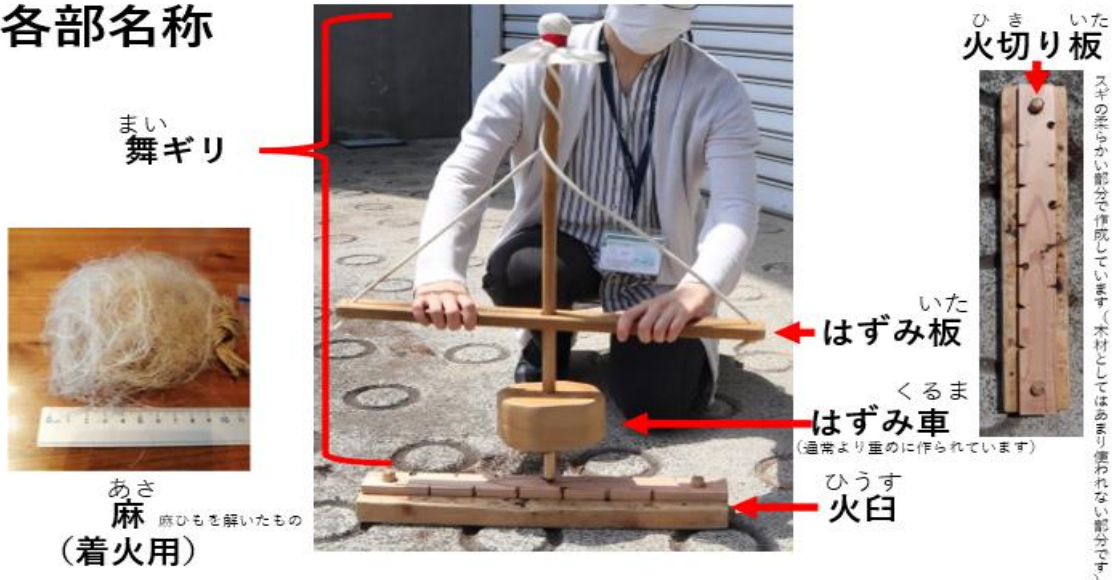
(6) 出前講座

縄文時代の生活

火起こし体験

埼玉県埋蔵文化財調査事業団

火起こしキット（舞ギリ式） 各部名称



火起こしの手順

※火臼抑え係、舞ギリを回す係、火着け係（軍手着用）に分かれて作業を行います。
髪の長い人はゴムやヘアバンドでまとめておきましょう。

1. 【火臼の準備】

火臼に火きり板をセットします。
浅く穴が出来ているものを使うと
安定して回し易いです。



2. 【舞ギリの準備】

舞ギリの先を、火臼の穴に垂直に立て、
はずみ板を手で2～3回回転させて
ヒモをねじります。



6. 【火を着ける（火着け係）】
麻から白い煙が出たら丸めて持って降り下ろす方向に腕をぐるぐる振り回し、風にさらします。



7. 【火を消す（火着け係）】
火が着いたら素早く手をはなし、地面に落とします。火の着いた麻はトングで拾って水入りバケツに入れて消化します。



3. 【火種を作る（回し係と抑え係）】
はずみ板の両端に手を掛け、かるく押し下げるとハズミ車の反動ではずみ板が上がるので、連続して回転し始めたら徐々に力を加えて速く回していきます。しばらく回すと煙が出はじめます。

※煙が出始めてから30秒そのまま続けましょう！



4. 【火種を移す（火着け係）】
30秒数えたら、煙の出ている茶色い粉（火種）を素早く着火用麻に乗せ換える。麻に包みながら息を吹きかけ、白い煙が出るまで火種を大きくします。



摩擦式火起こしの種類



弓ギリ式の最古の記録は江戸時代の伊勢神宮などにあるのみで、縄文時代まではさかのぼれません。

縄文時代後期の遺跡から、キリモミ式と弓ギリ式の道具が発見されています。

鳥取県教育庁埋蔵文化財調査センター
古代探検マニュアル vol.3「火起こしに挑戦」より

他にも火の起こし方（発火法）はたくさんあるよ！どんな方法か調べてみよう。

ヒント：摩擦法・打撃法・圧縮法・光学的方法・科学的方法など

火起こし（調理火）の歴史紹介

100万年前	3,000年前	1,300年前	200年前	100年前	今
旧石器時代	縄文時代	奈良時代	江戸時代 (終わりころ)	明治 大正	平成 令和
何かしらの火	摩擦式着火 炉	かまど 火打石	七輪 マッチ	ガスコンロ ライター	IHクッキングヒーター
					
ホモ・エレクトス (ヒトの祖先)					